

年頭のごあいさつ

新年おめでとうございます。

皆様には輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、自然災害に対する備えに加えて、感染症に対する備えが必要不可欠な一年でした。2月13日に発生した福島県沖地震からの復旧・復興や、新型コロナウイルス感染防止に向けたワクチン接種、基本的対策の徹底など、市民の皆様、事業者の皆様の御努力と御協力に対し心から敬意と感謝の意を表します。

また昨年は、大きな水害には見舞われず胸を撫で下ろしましたが、令和元年東日本台風などの被災経験を銘記し続け、本年も皆様の健康と安全を守るため、新型コロナ対策と並行して、地球温暖化に伴う気候変動への対策に邁進してまいります。

現在、世界各国は、COP26（国連気候変動枠組条約第26回締約国会議）を共通の理念とし、地球温暖化に挑戦しています。また、米中をはじめとする世界の脱炭素への取組は、環境問題から経済問題に変わりつつあります。既存ビジネスが激変することも予想され、国の2050年二酸化炭素実質排出量ゼロ目標に向け、こおりやま広域圏各市町村及び産業界とも連携し全力で取り組んでまいります。

私たちにはさらに、2025年問題、2030年SDGs国際目標年限、自治体戦略2040構想など、予見可能性の高い将来課題や目標からの「バックキャスト思考」のもと解決すべき課題が山積しております。

これら課題解決において、企業や家庭、そして行政におけるDX化が急務となっております。海外ではデジタル通貨発行の動きもあるようです。本市も時代の潮流に後れを取らぬよう、教育、健康、福祉、産業などあらゆる分野で市民の福利向上をもたらすDX化に注力し「デジタル田園都市国家構想」の一翼を担ってまいります。

「恩送り」(井上ひさし氏)の考えのもと、先人の事業や志を承継し、次代を担う子どもたちが健やかに成長できるよう、市民の皆様、事業者の皆様と行政が自助・共助・公助それぞれの役割を果たし補完し合う「協奏社会」を築き、SDGsの理念である「誰一人取り残されない」社会の実現を目指してまいりましょう！

本年が皆様にとりまして素晴らしい一年となることを心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつといたします。

郡山市長 品川 萬里